

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	大阪市立下新庄小学校
学校長名	前木場 篤

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・下新庄小学校では、第6学年 36名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は国語科では全国平均を8.2ポイント、大阪市平均を10ポイント上回った。算数科では、全国平均、大阪市平均共に10ポイント上回った。また、理科では全国平均を9.9ポイント、大阪市平均を12ポイント上回った。平均無答率は、国語科においては全国平均よりも2.1ポイント、大阪市平均よりも1.6ポイント上回った。算数科においては全国平均より2.4ポイント、大阪市平均よりも2.1ポイント上回った。また理科においては全国平均より0.4ポイント、大阪市平均よりも0.6ポイント上回った。

質問紙調査においては、自己肯定感については肯定的な回答が全国平均、大阪市平均を5.4ポイント上回っており、質問紙調査全般においても同様の傾向がみられた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

学習指導要領の内容で【知識及び技能】の各事項、また【思考力、判断力、表現力等】の「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てにおいて全国平均、大阪市平均を上回った。問題形式の選択式・短答式・記述式の全てで全国平均、大阪市平均を上回っており、その中でも短答式・記述式においては全国平均、大阪市平均を10ポイント以上上回る結果となった。

〔算数〕

学習指導要領の全ての領域で全国平均、大阪市平均を上回った。領域別に見ると「数と計算」では9.6ポイント、「図形」では5.6ポイント、「測定」では9.1ポイント、「変化と関係」では13.8ポイント、「データの活用」では10.2ポイント全国平均を上回っていた。問題形式でも、全てを上回っており、選択式では10.1ポイント、短答式では11.9ポイント、記述式では8.2ポイント全国平均を上回った。

〔理科〕

学習指導要領の区分・全ての領域で、また問題形式でも、選択式・短答式・記述式において全国平均、大阪市平均を大きく上回った。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」に最も肯定的に回答した児童は69.2%で全国平均よりも21.9ポイント大阪市平均よりも16.4ポイント上回り、肯定的に回答した児童は92.3%に達した。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的に回答した児童は97.4%で全国平均・大阪市平均を15ポイント以上上回り、肯定的に回答した児童は100%に達した。また「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に最も肯定的に回答した児童は92.3%で、全国平均・大阪市平均を17ポイント以上上回った。「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか」に肯定的に回答していない要因について学校全体で検討し、主体的な学びの改善に向けて取り組んでいきたい。h y p e r - Q U の検査診断結果を活用し全ての児童が安全で安心な環境の中で学びを進められるようにした。

今後の取組(アクションプラン)

- ・ICT機器の有効活用について、学習者用端末で行ってきた「心の天気」「いじめアンケート」に加え、今年度は新たに連絡帳も全校デジタル化にした。学習者用端末の普段使いを当たり前のこととし、端末が児童にとって身近にある文房具の一つとなるよう今後も取り組む。デジタルの力でリアルな学びを支えることにより、個別最適な学び・協働的な学びの実現をめざす。
- ・児童の基礎学力定着をめざすとともに、主体的に学ぶことができるよう指導を進める。
- ・『「自ら学ぶ力を育む」～主体的・対話的で深い学びをめざして～』という主題で研究に取り組んでいる。話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げられるよう今後も継続的に取り組んでいく。
- ・英語の学習に興味・関心を持って取り組める環境づくりに取り組む。
- ・児童が主体的に取り組む活動や地域・ゲストティーチャーとともに取り組む活動、異学年交流や体験的な活動などを通じて、学校生活を楽しめるよう取り組む。
- ・今後も学校全体で人権教育に力を入れて取り組む。

【 全体の概要 】

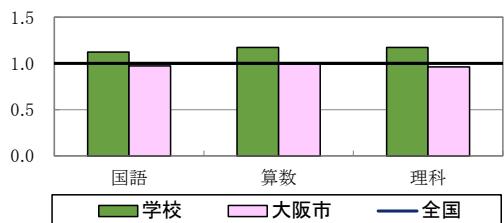
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	75	68	67
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

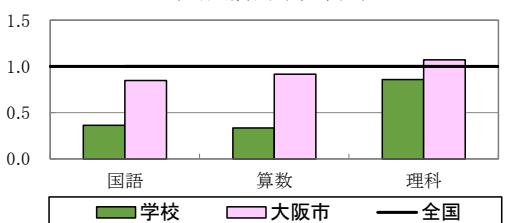
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.2	1.2	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



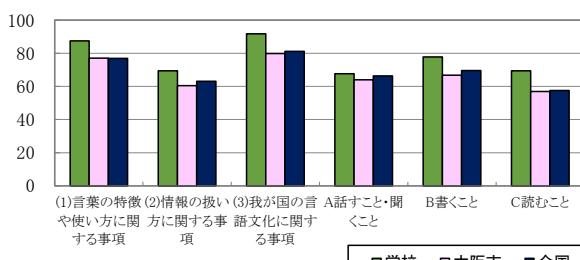
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	87.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	69.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	91.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	77.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	69.4	56.9	57.5

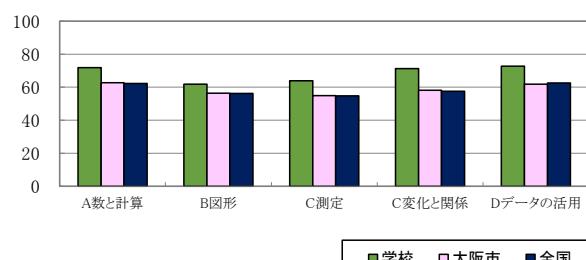
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	71.9	62.7	62.3
B 図形	4	61.8	56.4	56.2
C 測定	2	63.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	71.3	58.2	57.5
D データの活用	5	72.8	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



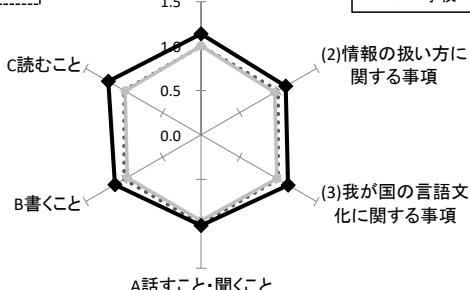
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

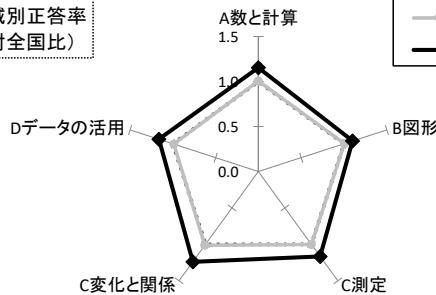
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
(2)情報の扱い方に関する事項
(3)我が国の言語文化に関する事項

..... 全国
--- 大阪市
— 学校



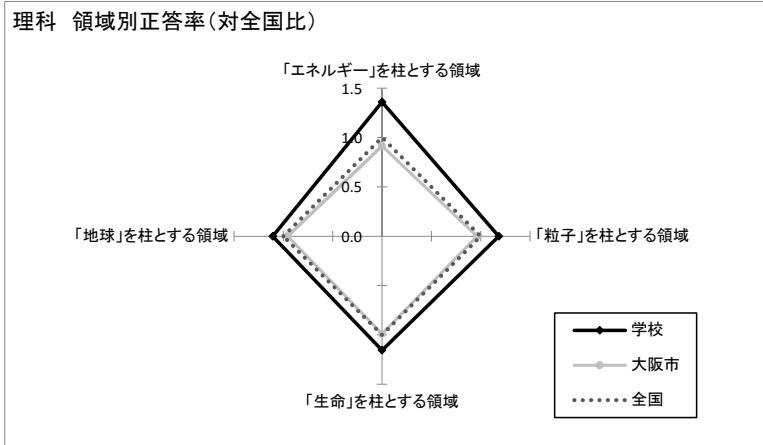
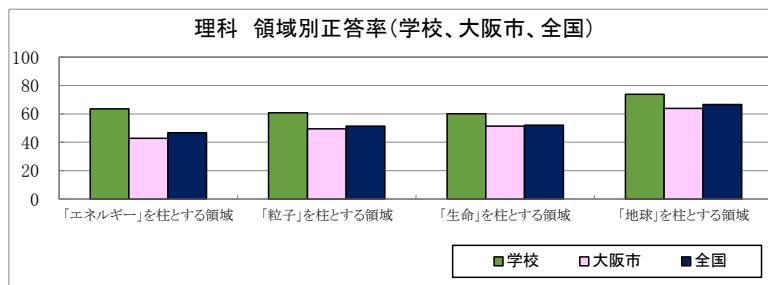
算数
領域別正答率
(対全国比)

..... 全国
--- 大阪市
— 学校



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	63.5	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	60.8	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	60.1	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	73.9	63.8



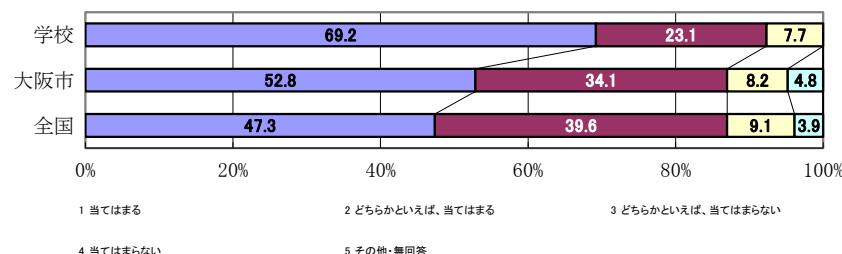
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

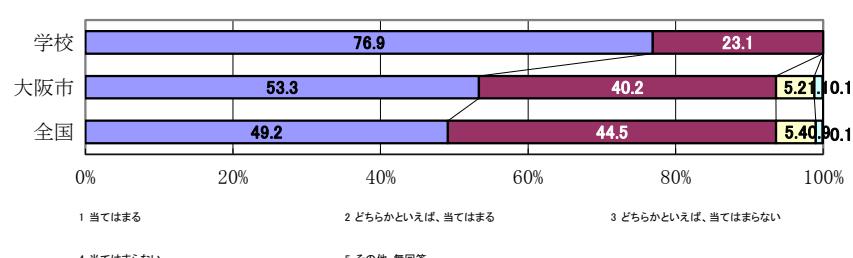
5

自分には、よいところがあると思いますか



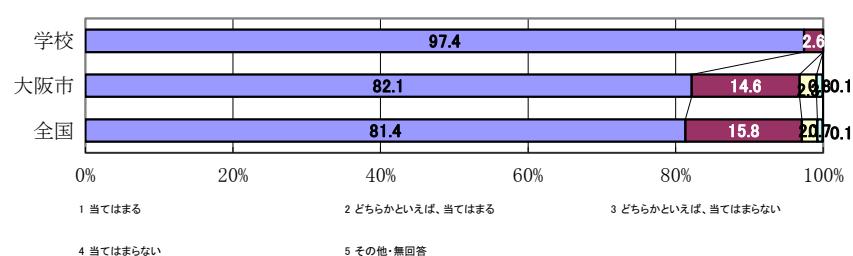
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



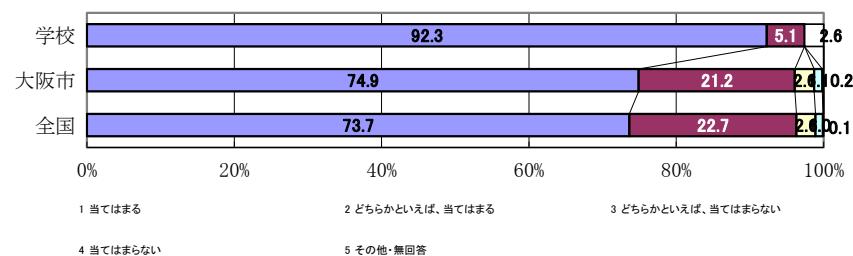
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



16

分からぬことやくわしく知りたいことがあつたときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

